

前橋市観光ビジョン【概要版】

令和8年度～令和17年度

策定の目的

将来にわたる前橋観光の方向性を共有し、まちが丸となって「**持続可能な地域観光**」を実現することを目指すため、「前橋市観光ビジョン」を策定します。

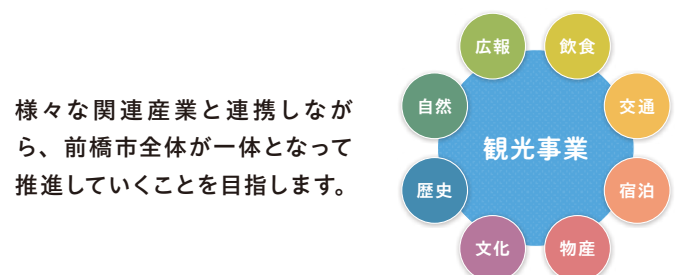
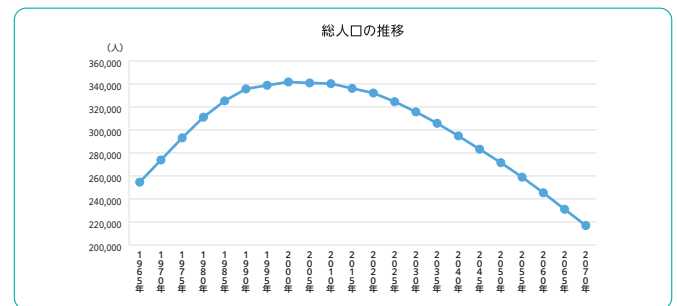
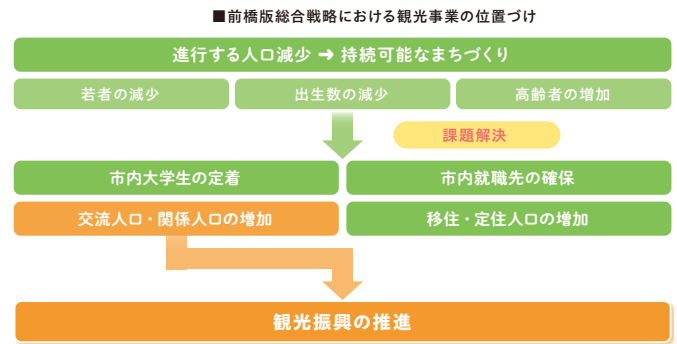
計画期間

令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの10年間を通じて**持続可能な地域観光**の実現を図ります。また、5年を区切りとして令和12(2030)年度に中間的な見直しを行うこととします。



観光の位置付け

人口減少が進む中、消費額や経済活動の維持、また地域の活力を維持・向上させるためには、『観光』を通じた「**交流人口**」や「**関係人口**」の創出が重要になります。

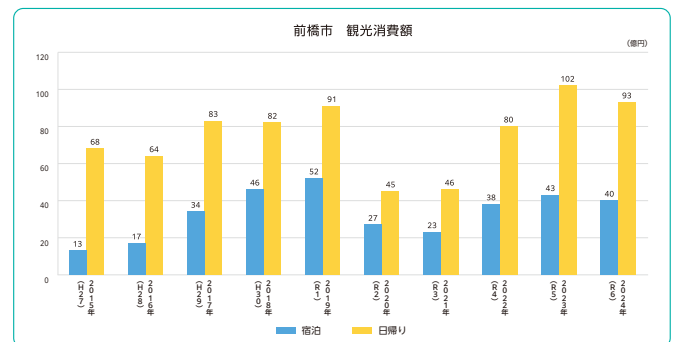
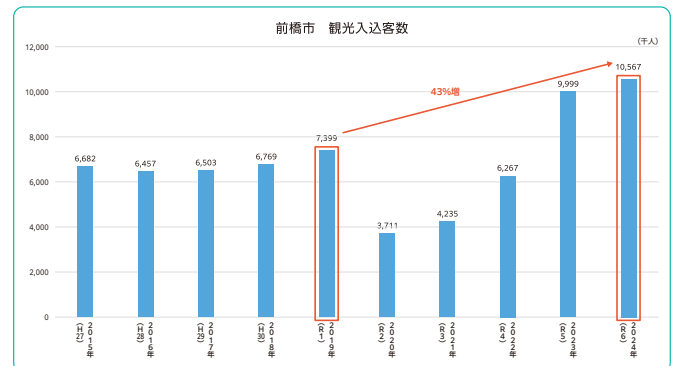


データから見る前橋市の現状

客観的にみた前橋の現状を把握すべく、統計データ等による分析を実施しました。

データ分析概要

- 観光入込客数は多いが、観光消費額や宿泊数が少ない
- 前橋市を訪れる目的はあるが滞在する理由が乏しい
- 滞在型観光に伸びしろが期待できる



出典：群馬県観光客数・消費額調査

前橋市の目指す観光の姿

前橋市観光ビジョン × 10年後の前橋観光の目指すべき姿

「雄大な赤城山の自然」と「まちなかに息づく豊かな文化」による魅力を繋ぎ合わせ、前橋にだけ流れる時間をゆったり楽しむ滞在型の観光スタイルの実現を目指します。

『赤城の自然とクリエイティブの街が紡ぐスローリゾート前橋』

コンセプト

赤城山頂から南麓エリアでは、深呼吸したくなる豊かな自然が四季折々の風光を織りなし、そこに広がる田園がどこか懐かしい日本の原風景を感じさせます。赤城山にあるゆったりとした時間の流れは、訪れる人々の心を強く惹きつけます。

一方、まちなかエリアでは、アートや文学、広瀬川・馬場川の水辺空間とレトロな商店街のノスタルジーが共存する街並みが魅力です。

この二つの柱を軸に、**日常の延長を過ごすという本来の「リゾート」の意味に立ち返り**、時間や自然をゆったり楽しむことを重視した「スローリゾート」として、自然・食及び文化、人と人を紡ぐストーリー性を大切に、前橋市の日常の姿を高次化／高質化して提供していきます。

ビジョンの基本的な方針

目指すべき姿	3つの視点	施策の方向性	施策の柱
スローリゾート前橋 赤城の自然とクリエイティブの街が紡ぐ	創る	(1) 稼ぐコンテンツを創る	①スローリゾートを体現するコンテンツ(商品)の造成 ②既存の魅力の磨き上げ・再編集
		(2) 環境を創る	①推進体制の構築 ②スローリゾートとしてのブランディング
	拡げる	(3) ターゲットに向けた効果的なプロモーション	①データに基づくターゲット分析 ②ターゲット(情報の受け手)を見極めた情報の発信
		(4) 国内外からの誘客促進	①受入環境整備(ホスピタリティの向上) ②広域的な連携
	共感する	(5) シビックプライド醸成	前橋市民総アンバサダー(宣伝大使)化
		(6) 前橋ファンづくり	①交流人口・関係人口の創出 ②ファンを担い手へ

ビジョン実現に向けたロードマップ

